

の非のみを擧げて、其の非を排
排斥せんとするのである。其の心事の醜陋
卑劣なる實に唾棄すべきではないか。
成程人として欠点のない者はない。然し學
校の教員でもない又坊主でもない労働團
体の會長が酒を飲んで、不可遊里に這入
つては不可。それ程身を慎まねばならぬ。
理屈が何處に有るか時には凌辱低吟も可
い遊里に趣いて英氣を養ふも可いではな
いか。餘計な人のお節介を廢かるゝが果し
て斯く云ふ人達に此事無きか。現に刷新派
の頭目廣永、吉田、川村、瀬村の諸君が
八木君を擁して度々酒色の巷に出入した
てはないか。甚しいのになる。金まで無心
して貰ふた者もある。誰知るまい。ご恩ふだ。
らう。が吾等の手元には已に々々刷新派諸
君の私行上の事や、今回事件の裏面の消息
が分明に調査されてあるのだ。叩々

中央委員會の經過 十一月五日中央委員
會は開かれた。是れより先き今井博士や
友誼團體の各幹部も調停に頗る勉められ
たのは實に感謝する所であるが奈何せん
刷新派が其の非を改めざる限り、決裂は到
底免れない。元より刷新派は正義の議論に
又向ふ事は出来ぬから、死力を盡して決議
權を有する中央委員を因縁をたごりて一
味ごなし數に於て勝を制せん。ご目論見た
(此間資格問題につき豊國、阿部兩君の陋
劣なる排策により一悶着あり)吾等支部
委員は正々堂々會員の輿論を代表して痛
論し會長をして辭職の餘義なきに至らし
めし理由を詰問してやます。然るに彼等は
其の秘中の秘が捕發されんことを虞れて

て名古屋聯合會の西浦君も立つて曰く「
刷新派の云ふ所に據れば八木君が依然と
して會長たらば會員は漸次減少する。若し
同君去らば會員は増加するから是非我自
分等に與して呉れごの事もへ其の相談に
與りしに只今大多數の會員は分離し事實
は全く之と相反するから我名古屋も突に
獨立する。此時彼等は呆然自失吾等の細
を控へて泣くが如く訴ふるが如く再考を
促す奴輩今となりて何んするものぞ。然
席を蹴つて吾等同志は引揚げたのである
諸君如何です。彼等が日夜練りに練つて反
問苦肉の策を弄した大團圓は此くの通り
です

獅子身中の虫 吾等は刷新派が以上の
如く一顧の價値なき排斥理由を楯として
陰謀を企む事を洞察したから分離したの
である。即ち之が分裂の動機であり従つて
八木君擁護に至る道程である。而るに刷新
派は吾等を目して八木君が葬られるご自
分達も葬られるご云ふ同類意識から會長
排斥に極力反對したご言觸らして居る何
處を押したらそんな音が出るのか。吾等は
かの秘密計劃を聞き同時に大阪聯合會
長ご支部長ごの職を辭したのだからに支
部長辭任は支部會員の容るゝ所ごならず
爲めに最後迄戦ふたのだ。醜は美を嫉み偽
は眞を嫌ふ。彼等の心中概ね斯の如しだ。彼
等は又云ふ組合の會計が紊亂して居て役
員間に不平があるから其の陣容を樹直す
爲めに八木君を齷るのだご諸君之れ恥を
知るもの、言か果して組合の會計紊亂し
て居るなら何も會長一人の責任ではない

少數黨をなし此の忌しき大渦亂を捲起し
世間をして向上會の鼎の輕重を問はしめ
竟に決裂の羽目に導いたのである。之れ獅
子身中の虫に非ざるか。吾等は刷新派の諸
君が曩日の友なるが故に爰に苦言を呈す
る。速に其の職を退き罪を會員諸君及び天
下に謝せよ

純向上會の創立 諸君は以上述べまし
た事に依り其の眞相は諷解されたてせう
をして直に是非曲直は判斷出来たてせう
云ふ迄もなく今日の労働者は一日も組合
なくては行かれませんが、ですから吾等は
分離した各支部員を初め吾等ご志を同じ
うる人士ごを打つて一團ごなご此處に
純向上會なる新團體を組織しつゝあるの
です。其の成立の日も數日の内にあるの
です。我々は從來の如く普選を標榜して進み
彼等の如く或は牛可通の外來思想にかぶ
れたり或は固陋なる舊思想に囚れず。尤も
着實穩健に何事も實力を以て終結し會員
相寄り相扶け會の發達を計り以て向上會
の純の純なるものを形作らんごして居る
のである。諸君は此際奮つて我會に投せら
れんごを希望するのであります

大正十一年十一月
東區谷町一丁目二
純向上會創立委員
河村政次
二川政行
兼安達郎